

作品解説

4.上瀧 伸博

15.田中 英

18.ROME

31.のうとみ ふみこ

33.堺 浩一

34.みずたに まなぶ

35.いちとせ

40.ほほほ ほほほ

41.えんどう みほこ

49.淵上 真友美

50.小嶋 佳那

53.川田 秀子

54.松田 智恵

55.野網 早

56.西岡 聖哉

57.彩木 龍皓

60.岩熊 恵子

61.久我 哲夫

51.秋元 真理子

響き合う、静寂と潮騒。
引き合う、月と地球。
紡ぎ合う、人と祈り。

「静寂なる響き」（海中鳥居）

暗闇の中、静寂と波の音が交互に押し寄せる。月明かりで朧げながら海中の鳥居が浮かびあがる。

この作品は「月の引力が見える町」とされる佐賀県太良町で、平成最後の満月の日に撮影しました。

潮の満ち引きは月の引力によって起きます。静かな海はまるで響き合っているようでした。

地平線が潮で満ちていくさまは、地球と月の呼応のようです。

また信仰の象徴である鳥居で、見えないモノ、聞こえないモノの響きを表現しました。

上瀧 伸博

水 鏡 (水山翠)



水の神が湖面に山の木々を優しく受け入れ守っている。
古来から人間は水を大事にし、人類は恵みを受けています。
又、水難を受けることも忘れてはなりません。
古来から人間は山を大事にし、人類は恵(鉱山・山林等)みを受けています。
水の神、水源地に祀られる水神は山の神とも結びついている。
山の神、山に宿る神の総称であり 又、一般に女神であるとされている。

The god of water gently accepts and protects the protects the trees
in the mountains on the surface of the lake.
Since ancient times, humans have cherished water,
and humankind has been blessed.
Also, don't forget that you will suffer a water accident.
Since ancient times, human beings have cherished mountains, and
human beings have been blessed (mines, forests, etc.).
The god of water, the god of water enshrined at the water source, is
also associated with the god of the mountains.
A general term for mountain gods and gods dwelling in the mountains.
Also, it is generally considered to be a goddess.

水と山に司るエネルギーを体感して下さい。

〒665-0046

1-4 Fukuicho, Takarazuka City, Hyogo Prefecture

Hideo Tanaka (Hanabusa)

Phone : 090-8939-5103 / 050-4580-5294

「^{まひ}郷言キ」ってナンデスン?



「ウイスキーの銘名柄、なのかもしれないけど、コレは違うぞ、うん。

この年で「アイツ」の登場より、今まで「当たり前」だった事が「当たり前ではない」になった。
当たり前に仕事や学校へ行き、当たり前な好きな場所へ出掛ける、当たり前にか誰かと会う...
それって「アイツ」が登場する前までのお話し。
大体、コレ読んでるアナタの口には今までなかった「マスク」があるじゃないか。

私自身、この年、エブリソフカ—!! になってしまった。
その時に「温かい言葉」に救われ、「心ない言葉」に悔しくて涙も流した。
そんな私が「響き」と聞いて思いついた事は「言葉は刃先酒告げけど温かい」

色とりどりのフェルトボールは、そんな「色々な言葉」の“色”であり、
布やボタンは「仕事や洋服好き=日常や好きな事」を表している。
スタッズは「痛々しい傷」、マリオンローは「妄想や煩惱」(←私の場合です。)
そう、自分自身の心の中をスグスグクしてしまっただけである。
大変、はずかしい... いや、本当に。
でも、きっと私と同じ様にこのコロナ禍で色々な言葉に傷つき、救われ
人も涙もいると思う。

さて、皆さんのフェルトボールはどんな言葉で、その中には何かがあるのか。

PS. それにしても、マスクなしでライトK行きてえ〜っすね、いやマジで。

FROM ROME (by)

静かな生命の祈り

夜の静かな山奥の湖に、妖精が祈りをあげると月が鳴きポトポト流した涙が生命を宿し、魂の魚になって赤く燃え上がり妖精の周りをグルグルと廻り始める。

1匹の魚が月に向かって雄叫びをあげるとまた、月に帰って行く。

生命の音が心に響いた時人もまた生まれ変わり生命を宿す。

心の叫び声が生命に響くイメージで描きました。

油彩は、ほとんど描いた事がないので厚みをもたして色味を出すのに苦労しました。

下地に伊勢志摩の海の砂を使用して描きましたが、油彩の場合は下地は何もいれない方が良かったのかもしれませんが。

もっと深く描きたかったのですが油にてこずりなかなか思うように進みませんでした。

のうとみふみこ

ミナミの流音 みどうすじ

制作・塚 浩一



【作品解説】

大阪市内を南北に縦断するメインストリート・御堂筋、その中でもミナミと呼ばれる界隈に焦点をあててみました。御堂筋を川、通りが至る難波の街を海にみだてて世界観を作りました。その世界観に沿って写真と言葉を一コマコマ並べ、紙上フォトエッセイ風(?)に仕上げています。

【作品のポイント】

写真

御堂筋の通りを南下する形で撮影した夜の街。そこから垣間見える夜街の人の流れを写しとってみました。

言葉

写真の説明ではなく、そこから想起されるイメージを言葉として作ってみました。それを写真と同じコマとして表したのが、文字ボードです。フィルム映像で字幕画面(サイレント映画でセリフなどが出るあれです)を撮影していた時に作成した字幕ボードと同じ要領で作りました。フィルム撮影の際は、ボードのバックに照明で光源をつくり、字穴から漏れでる光で字を抜いて撮影します(ボード裏に遮光用のシートを敷き、字の形で光を抜くようにします)。今回の場合、明確な光源はありませんが、光があたれば反射光が文字を浮かびあがるせるよう試みています(効果は、会場の光源次第ですが)。

構成

イメージしたのは、映画本などで、映画のシーンをカット毎のコマを並べて、本の上に再現した誌上映画みたいなもの。映像のカットを繋ぐように写真と言葉をひと繋ぎにしてみました。映像作品を観るように、タイトルから完まで順を追ってご鑑賞ください。

光響

みずたに まなぶ

橋を渡り、
振り返る
映り込む
移ろいは
経つにつれ
違って見える
でも、
揺らめきは
きつと、
同じ

響きが
理由だから

『響き』

『塊展』初参加です。

響きとは影響をあたえながら広がっていくさまが、水の波紋にも似ていると思います。

今回は以前より撮りためていた『着物楽団』シリーズ。

季節を追いかけている間に年月がたちましたが、

響かせたい想いはずっと変わっていません。

どうか遠くまで届きますように。

いちとせ



ICHITOSE_SIKI

＊前日体験募集中です＊



Petit
Bonheur



Petit Bonheur はフランス語で『小さな幸せ』という意味です。わたしは自身のことと重ねて今回5つの作品を描きました。大阪芸通は数年前に辞めてしまいましたがこうしてお声がけしていただいている環境、5年間大阪に住んでたくさんの友達に助けてもらえた環境、笑顔の絶えないアルバイト先の環境…。書ききれないくらいたくさんの幸せをいただき心に《響き》ました。

そして今まで手描きイラストのみ展示してまいりましたが今回初めてのデジタルイラストです。色んなことに挑戦していきたいという気持ちも込めて描いてみました。

絵を通して可愛いなあ、いやされるなあと思って頂けたら幸いです。

作家名 ほほほ ほほほ

作 品 紹 介

「願い」

* 今の私の願いを言葉にしました。

「響」

* 今回のテーマを大きく書きました。

音楽科卒の私にとって「響」は曲作りでとても大切にしています。

「春夏秋冬」

* 春は桜。夏は海。秋は芸術。冬は。私の好きな四季。

えんどう みほこ



BELLowes-folding Book Box

箱の扉を開いてタッセルを引っ張ると、

小さな物語の世界が広がります。

タッセルからつながる赤い糸は、

一本の紐を巡る出会いの物語へ。

ジャバラ折のページをあちらこちらと通り抜け、

最後に紐が辿り着く場所は。

文章という媒体に、箱などの立体造形を組み合わせた作品になっています。

作品名の「Bellows-folding」は「ジャバラ折り」の意味ですが、今回の「響き」というテーマにかけて、そこに「BELL」の名前を冠しました。

見た目や物語の内容も、「響き」に関わる聴覚を始め、他の五感を使って想像しながら味わえるような作品作りを目標に制作を行いました。

本来は、お客様自身に箱を開け、扉を開いていただく作品ですが、今回はコロナ禍ということもあり、既に展開した状態で展示させていただいております。

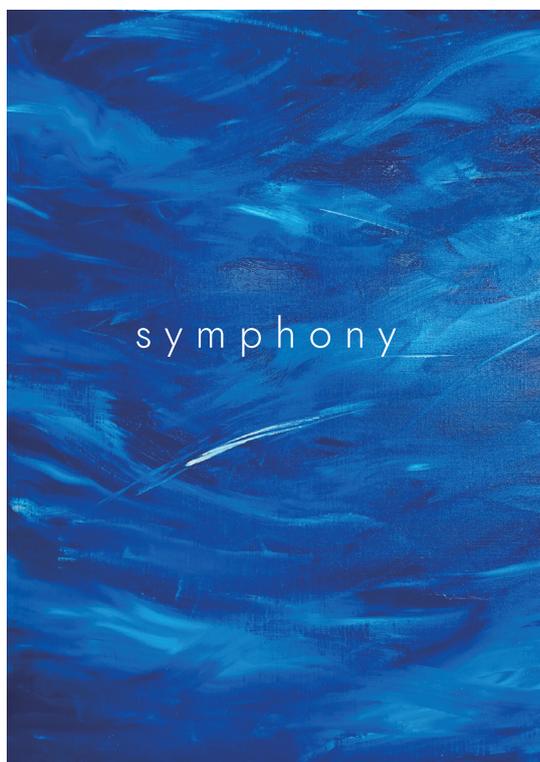
淵上真友美



symphony



小嶋 佳那



- 冊子：A6サイズ、20ページ
- 表紙原画：800mm×650mm アクリル絵の具、キャンバス
- 本文原画：148mm×100mm コピック、透明水彩

「新しい生活様式」という言葉が登場してから約1年が経ちました。

演奏に多人数(50名以上)が集まる必要のあるオーケストラは活動が困難になっている団体も多く、私の所属するオーケストラはもう1年間合奏ができていません。

そんな折、奇しくも「響き」というテーマで塊展が開催されることになりました。

いつかまたホールをオーケストラの「響き」で満たせるように。——そんな願いをこめて、自分が好きで、弾きたい・聴きたい「交響曲」7曲を選び、そのイメージを絵にしました。

なお、各作品、および解説に関しては、あくまで私の抱いた印象を形にしたもので、皆さんには自由に聴いていただきたいですが、交響曲に興味を持っていただくきっかけになれば嬉しいです。

生まれ変われる泉

クリエイティブな作品たちが、有機的な繋がりを持つとき、
じわじわと共鳴し始めて、すっと物語りが生まれる。

作品たちは、もともと、独自のテーマで命が与えられた。

「華やぐ」

「木漏れ傘」

「和紙のあかり」

「胎動」

「棕櫚」

それぞれが絡み合い、響き合い、宿り、不変の友情の物語りが、
生まれるのだろうか。

それとも、勝利の物語りが生まれるのだろうか。

きっと、あなたそれぞれの物語りが生まれるに違いない。

何度もどん底に叩き落されようとも、諦めなければ、

どのような形であれ、希望の物語りが生まれる。

作品名「残響」
岩熊 恵子



第14回塊展のテーマ「響き」に際し、これまでの習作3曲をまとめた作品集「残響」として今回展示するに至った。

「残響」といえば、音楽では「リバーブ」であろうか。例えば、風呂の中で歌った場合、何も家具のない部屋で話した場合、ホールでピアノ演奏を聴いた場合など、普段の聴こえ方と異なり、余韻が残った豊かな音が聴こえる。

また「響き」といえば、楽器の音色を指すか、ピアノの響き、バイオリンの響き、管楽器の響き、歪んだギターの響き、太鼓の響き。それぞれに個性のある響きがある。

それでは、今回は何の「響き」なのか。

それは、変わりゆく街の響きかもしれない。はたまた、遠い昔の記憶の響きかもしれない。それとも心の中でいつも鳴っているあの音の響きなのかもしれない。

どちらかといえば「残像」に近いような「残響」かもしれない。



1. 「snowstorm」 (2021)

今年の冬、数年ぶりに福岡県で雪が降ったことから、雪国の厳しさを想像した。雪にまつわる民話は意外と恐ろしくて切なく心に響く。

2. 「empty」 (2020)

歪んだ音が好きである。クリーンな音にはない物悲しさ、怒り、覚悟、焦燥感、諦めのようなものが感じられるからである。瓶とグラスの音を歪ませた。その中を空き缶みたいな何かが転がっていく。虚無感を漂わせつつ。

3. 「in the city」 (2019)

…たとえば、マッドネスの名曲を思い出すが、of Fukuokaである。福岡市は九州地方の拠点であり、空港が近く建築物には高さ制限が長らくかけられていた。昨今、制限緩和により古いビルを取り壊し高層ビルへの建て替え工事が始まった。そのような街の音のみを使った。



出展作品解説

音楽学科 久我 哲夫 (千葉県)

初参加ですが、2作品を出展いたします。

●針金の奏でる音の響き「大正琴アンサンブル」

皆さん、大正琴ってご存じですか？

以前、テレビ通販で一世風靡した時代がありました。そして、どうしても「高齢者」の楽器というイメージが拭えないようにも思うのですが・・・。

20歳で大正琴に出会い、35年が過ぎました。この間、大正琴アンサンブルでオーケストラのような演奏ができないかと試行錯誤してきました。

今回は、その集大成となるべく、エレキ大正琴のアンサンブル楽譜の展示と自身の演奏（マルチレコーディング）を聴いていただこうと思っています。

（コロナ禍のため、大正琴のアンサンブル演奏はYouTubeにもアップしました。琴城流大正琴の名取名「すずき きんこうぼく」でぜひ検索してみてください。）

●生徒と先生の個性が響きあう

「新しいスタイルのピアノピース」

小さな音楽教室を開いたのが、高校卒業の時、18歳でした。それから、実に37年の月日が流れました。設立当初から、コードネーム付きのメロディー楽譜を自由に両手で弾けるピアノメソッドがあれば・・・。

と思い、いろいろと取り組んできましたが、今春、やっと形にすることが出来ました。

といっても、答えが無数にあるピアノワークシートを制作することとしたのですが、、、その第一号作品を展示いたします。

具体的な指導方法などは、今春以降に、YouTubeにアップしていく準備を進めています。それと合わせて、この新しいピアノピースの指導方法、活用方法を一緒に考えてくださるピアノレスナーの皆様も募集し、全国組織を立ち上げたいとも思っております。一人でも多くの方の参画を心からお待ちしております。

一人でも多くの方のご感想、ご意見を伺えれば幸甚です。よろしくお願いいたします。

本作品のポイント

① アクリルパイプに刺さる無数のトゲ

私たちの生命を守る、いまや生活に欠かせない存在となったアクリル。そこに刺さる無数のトゲは、私たちの魂に突き刺さるどうすることもできない痛みを表している。



② ドクロのビーズ

白や青で彩られた頭蓋骨を模したビーズは、死んでいった者たちを想起させるが、リアルな骨をかたどったというよりはむしろ、デフォルメされたその形状は、メキシコにおける「死者の日」のような、祝祭的要素さえ彷彿とさせる。



③ 眼の形のビーズ

三眼天珠と呼ばれる珠で、過去・現在・未来を見通す、仏の第三の眼を象徴する。見えないものを見、隠されている世界を読み解き、世界から「苦」を取り除かんと欲する。

④ 回すと音が出る機構

人々の手から手へ、ぐるぐると回りながら音を奏でるこの作品は、巡りめぐる輪廻転生を象徴している。

本作品のコンセプト：死んでいった者たちへの祈りと祝祭

不運にして命を落としていった人々が、冥福とともに虹の橋を渡るように、よき輪廻の輪に乗るように、恵みと祈りの輪として、人々の手から手へ巡り、雨の音を降らせる楽器である。本作はただそこにあるだけでは作品として機能せず、鑑賞者たる人々の手により反転されることで、はじめて作品としての命を得るということは、運命にただ流されず、自分達で手綱を握り、運命の輪を回していくという、人々の行動を必要としていることを象徴している。

本作品のポイント

プロモーションビデオをご覧ください。

本作品のコンセプト：世界がこぼす^{なみだ}涙

コロナで苦しく、悲しく、絶望さえしているのに、うまく泣くことができないのはどうしてなのだろうか。おそらく、本当に悲しい時、人はかえって涙を流すことさえできないのかもしれない。この作品を通して、水のしずくがしたり落ちるさまを見るにつけ、作家である私自身が、自分自身の本当の気持ちを客観視することができた気がした。

海、森、そして大地はそれぞれにつながっていて、かつて海だった場所が長い長い年月を経て隆起し、森になり、やがては降り積もる地層に埋もれていって、地の底になる。そしてまたいずれはそこが海に戻るのかもしれない。そのような、巡り巡る悠久の時の中でも稀な現象であるウイルスの世界的流行という災厄に瀕して、私たちは今いちど、外界と自分のかかわり、他人と自分とのかかわりのなかで、自分自身の本心と向き合うことが、明日への一歩を踏み出すために必要なことかもしれない。